

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
むかわ町こども発達支援センター穂別きらり		6年 11月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	83%	17%	・それなりのルールを設定していき、工夫していく。 ・粗大運動が重ならないよう時間配分する。	・大きくになると運動する場所が狭く、ホールはボールや羽根がすぐに天井にひっかかる。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%		・段差がある玄関に傾斜を設置済み。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・暑い日は、ホールにエアコンがあるので、戸を開けて開放するか、ホールに移動して療育する。	・夏季の猛暑日にエアコンなしの個別室は厳しい。個別室にエアコンつけてもらえるよう努力していきます。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		・重なっての療育は、職員同士で調整し、移動可能。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		・個別懇談を実施している。 ・評価表にて保護者の意向を確認したり反省もして参考になっている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	33%	67%	・第三者の評価してもらうことを前提に第三者委員を2名お願いしている。見学はきていただいているので、今後チェック機能をお願いしていく。	・外部の第3者の細かい評価を行っていない。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・必要な研修を受講できる環境である。 ・全員が年に1回以上必ず講習を受けるようにしている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	50%	50%	・今年度中に公表する予定 ・作成途中	・簡単なものはあるが、皆さんにお示する支援プログラムは、R6.4月には公表できなかった。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		・日々の療育や保護者からの情報により課題を分析して計画を作成している	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		・支援管理者と職員全員と共通理解をし計画を立てている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	67%	33%	・必要であれば町の臨床心理士に検査をお願いし、保護者、関係者で共有をはかり、療育にいかしている。	・アセスメントツールを使用しているが、細かいものは必要としている。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・職員全員で確認し、検討している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	83%	17%	・チームで活動プログラムの立案をおこなうようにしていく。	・個別療育の際には、担当職員が計画に基づいて立案することもある。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・興味のあることや好きな課題を中心に計画している。計画や日誌を見返し、活動プログラムが同一にならないように配慮している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	83%	17%	・担当職員が個別療育をする時も、チームでの支援開始前の打ち合わせを充実させていきたい。	・チームで連携して支援するようにはしているが、個別療育ではその限りではない。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	83%	17%	・可能な限り(Gなど)行っている。 ・その日の振り返りにはならないが気づいた点を後日話し合うようにしている。	・その日のうちにということが、難しいこともある。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・全ての療育終了後必ず記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	83%	17%	・定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画を見直すように心がけている。	・保護者との懇談やケース会議等から児童発達支援計画を見直すようにしているが、もっと深めていきたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	83%	17%		・相談支援事業所との担当者会議は参画していないが、関係機関との会議はこどもの状況理解しているものが参加している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		・必要時には連絡を取り合い、連携できる体制作りしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・定期的にこども園とケース会議を開催し、困り感なく過ごすための情報共有を図る。保健師、心理士も参集し、支援方法についてアドバイスをもらったり、協議したりする。	・こども園とケース会議を開催するにあたって、参加してもらいやすい方法を協議しなければならない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		・就学時には丁寧に支援内容等の情報共有と相互理解を図るようにしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	83%	17%		
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	100%		・専門の先生による学習会を開催したり、必ず全員が外部研修を受講している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	100%			
	31	(31は、事業所のみ回答)	100%		・助言を受け、支援のあり方についてアドバイスをいただく	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	・開放事業で来所した方と交流する機会あり ・利用児童全員がこども園も利用。	・特別な機会は設けていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・毎回必ず、保護者に詳しく伝え、共通理解を持っている。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	17%	83%	・今後ペアレント・トレーニング等について研修し、取り組んだり、情報提供をできるようにしていきたい。	・家族支援としてペアレント・トレーニングを提供したり、研修を紹介するというのが足りない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		・定期的に話し合っているが、必要時にはすぐ対応できるようにしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		・親子戸外療育を実施し、大型バスで帯広動物園に行くことができた。10家族に参加していただき、保護者、兄弟で交流する機会となった。	・コロナ禍で停滞してしまった保護者の会の活動。参加したくなるような活動内容を探していきたい。 ・保護者による文集づくりも協力していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		・態勢は整えている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%		・毎月通信を発行し、行事予定・活動状況をわかりやすく発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・言動に気をつけることはもちろん、事業所内の個人情報には書庫に鍵を掛けて保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		・無理なお願いをしていないが、傷つける発言をしていないか常に振り返り、寄り添って支援できるように心がけている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
の保護者等へ 非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	67%	33%	・開放事業で開かれた事業運営として認知されるよう努めている。 ・事業所主催で親子参加型の遊びの提供をしている	・おひさま開放事業として小さい子向けの親子に開放している。4, 5歳児向けはしていない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	67%	33%	・マニュアルは全て作成し、期間を決めて、保護者が手に取って眺められるようにしている。	・マニュアルは策定しているが、訓練を全てはしていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		・立地に合わせた業務継続計画を策定している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%		・こどもの状況を詳しく保護者から聞き、対応方法まで確認し、全職員に周知し徹底させている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	67%	33%		・医師の指示書に基づく対応までは不十分。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	83%	17%		・安全管理には十分気をつけているが、訓練はできていない。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		・小さなできごとでも記入するように心がけ、今後にいかされるようにしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		・自主的に勉強会を開く。	・外部の虐待研修を受けて、職場におろすようにしている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	17%	83%	・対象児童なし	